

# WORLD REPORT

## FOR INTERNATIONAL AFFAIRS

編集・発行人 中丸薫  
発行所 国際問題研究所  
〒720-0065  
広島県福山市東桜町1-15-506  
Tel: 084-982-6702  
Fax: 084-982-6704  
Mail: info@nakamarukaoru.com  
URL: www.nakamarukaoru.com

※無断で転載することを禁じます。

今月のことば



### 「エネルギーに満ちた世界を生きる」

中丸 薫

国際情勢

#### エボラによる人口削減とワクチン利権の詳細

先日、日本で二度目の感染騒動があったが、エボラの全容がようやく見えてきたので皆さんにご報告したい。

エボラは今年の2月にギニアで感染が確認され、リベリアからシエラレオネ、そしてナイジェリアへと広がった。しかしそれと時を同じくして、WHOと国連のユニセフが、国境なき医師団を通じて大規模なワクチン接種を実施していた事が判明した。

そしてここに来て、2006年にネキサス州で行われたある科学学会の議事録が注目を集めている。その学会は、エリック・R・ピアンカ教授の功績を讃え賞を授与するという趣旨のもので、シチズンサイエンティスト紙がその演説を記録していた。ピアンカ教授の演説は、工業化時代から始まった人口増加が、地球環境を破壊し続けているというスピーチから始まった。そして、これは一般人が聞くべきではないとしながら、戦争やエイズは人口問題の解決には至らなかったが、空気感染するエボラ・ウイルスは迅速で、はるかに人類50億人を駆除するのに望ましいと熱弁したのである。そして、「私たちは致死率90%のウイルスを持っていきます。人類を殺すことをご考慮ください」という言葉で締めくくられていた。驚いたことに、彼の演説を聞いた会場は、満場の拍手で溢れたという事まで記録されていた。

今後益々必要とするからだ。つまり、核兵器では土地を汚し、戦争や飢饉では進行が遅い。他国の資源を速やかに略奪するには、人間だけが消える疫病こそ米国の資源政策には必要だと考えているのである。ちなみに、この頃大統領に就任したのは、ケネディ大統領の死因を闇に葬った元ウォーレン委員会のジェラルド・フォード。そして、副大統領にはネルソン・ロックフェラー、国防長官にはドナルド・ラムズフェルドが名を連ねている。

そして1974年、キッシンジャーを中心に「国家安全保障覚書200」が策定された。現在、機密解除されたこの公文書には、ワクチンは人口削減が目的である事がはっきりと明記されている。ワクチンに混入されるのは、不妊薬や脳障害を引き起こすアルミニウム、そして人体に有害な水銀など多岐に渡る。また、エイズ感染者の80%はアフリカに居るが、エイズウイルスも「覚書」によって立案された。これは黒人の人口削減を目的に、アフリカ系人種の免疫不全を起こすよう遺伝子操作されている。そしてHIVを天然痘ワクチンに入れ、慈善活動を通してアフリカ全土に広めたのである。皆さんも一度はエボラウイルスの写真を見たと思うが、エボラが人工ウイルスではないかという特長は、そのミミズのような長い外観にある。通常、インフルエンザといったウイルスは丸く表面は突起で覆われ、体内で細胞と結びつき増殖する事で病気が進行する。ウイルスにはDNA情報を取り扱うRNAがあるが、エボラのように人や豚はおろか、鳥や羊のRNAまで無理につなげてゆくと、その情報量に比例して外観も長くなってゆく。エボラウイルスの感染力が高いのは、長い表面を覆う突起が大量にある分、細胞と結合しやすいと考えれば納得できる。また、富山化学工業のアヒガン(ファ

ピラビル)は、インフルエンザウイルスの遺伝子複製を阻止する薬だが、それがエボラに有効ということからは、ベアスが鳥や豚インフルエンザの混合である可能性を示唆している。

しかし、エボラが人工ウイルスであるという憶測以上に奇妙な事実がある。それは、CDC(米疾病予防管理センター)が2009年にエボラ出血熱の「特許」を取得した事である。特許権というのは技術や発明に対し、その権利を市場で独占するために得るもので、病名が付く特許など聞いた事がない。それは「脳梗塞の特許」といった、人間が介在し得ない権利なのである。しかし「heboora」というこの特許は、CDCがエボラの誕生に関与し、将来的な利益を見越して造られた事を物語っている。

また、米国防総省は、カナダの製薬企業に1億4000万ドル出資している。このテクミラ・ファーマシューティカルズ社は、エボラに有効な「TKMエボラ」を製造するが、その親会社は遺伝子組み換え作物のモンサント社である。そして、モンサントの親会社は、ブッシュ族が経営するブラウン・ブラザーズ・ハリマン銀行である。さらにそのモンサントの大株主は、近年ワクチンに積極的なビル・ゲイツ財団なのである。また、ビル・ゲイツ財団はWHOの最大の支援者でもある。この事からも、ウイルスとワクチンの製造が、闇の勢力の同族内で行われている事がわかりただけだろうか。また、2009年に新型インフルエンザが流行した際、ラムズフェルドのギリアド社が持つ「タミフル」は莫大な利益を生み出した。日本でも副作用で多くの若者が自殺し、1億3千万人分の在庫を出したのは記憶に新しい。そして今回のエボラ騒動も、ワクチン利権の再興をねらったもので、製薬企業やバイオ産業は莫大

な利益を目論んでいる。しかし、闇の勢力が各国で計画を遂行するには、安倍政権のように国家の指導的立場の協力者が不可欠である。それを裏付けるように、今回エボラが深刻化したりベリアとシエラレオネには、米国の生物兵器研究所がそれぞれに存在している。そして、シエラレオネにある生物兵器研究所のオーナーも、またもやビル・ゲイツ夫妻なのである。

今後、エボラは収束と再発を繰り返す、人々が自らワクチンを求めるよう恐怖を煽る報道がされてゆく。そしてエボラの大流行が宣言される時、各国は国民全員にワクチン接種の義務づけを促してゆく。国民は進んでワクチンへと殺到し、受けたくない者は強制的に隔離される。これが闇の勢力の描くシナリオである。しかし、どのような理由でも、決してワクチンは受けたくない。ワクチンは人口削減に関係するどころか、人口削減のためにワクチンが存在しているのである。これはもはや陰謀論ではなく、過去の記録や公文書からも得られる純然たる事実である。その上、ワクチンに混入したウイルスでさらにエボラは拡散し、侵略目的で設置される他国の軍事施設の正当化にもつながる。そして、それはまさに現在アフリカで行われている作戦なのである。

先日、東京で再びエボラの感染疑惑が起った際、菅官房長官は検査報告を待たずに「エボラ出血熱の可能性は低い」と発言した。つまり、各国首脳はエボラが人工である事を知っているのである。そして、今はまだその時期ではないという確信がなければ、決してあのような発言になることはない。しかし、それと同じように世界の人もエボラが人工ウイルスである事を知りつつある。3・11や9・11という困難を経て、私達もただ騙されるだけの存在ではなくなったのである。

トピックス

エボラ第三の目的

10月20日、WHOはナイジェリアのエボラ出血熱の収束宣言を発表した。これは42日間、新規の感染者が出なかった事から判断されたものだが、ナイジェリアでは事前に特別な措置が施されていた。それは、人道支援団体の「赤十字」を国外追放するという異例の措置であった。

現在、米国は4000人、英国は3000人も軍隊をアフリカに派遣している。しかし、なぜ医療チームではなく軍隊なのかという疑問があったが、ガーナ在住のナー・クウエームという男性がネット配信した文章で謎が解けた。クウエーム氏の手紙では、エボラ出血熱は赤十字の注射を受けた者だけが発症しているという文章で始まっていた。

先日、エボラの終息宣言をしたナイジェリアは石油の産出国である。最近また新たな油田が発見されたが、その利権を巡り過去何度も紛争が起きた。一方、シエラレオネとリベリアは世界最大級のダイヤモンド産出国で、ここでも鉱山の利権を巡り、幾多の内戦が繰り返された。そしてこの石油が豊富なナイジェリアと、ダイヤモンドが眠るシエラレオネとリベリアという3カ国が、今回のエボラ騒動の中心地なのである。

今年の5月、イスラム過激派の「ボコ・ハラム」が、ナイジェリアで200人以上の少女を誘拐したとして、米国は速やかに部隊を派遣した。しかし、現地の住民がそのような事実はないと声を上げ始めると、やがて報道は沈静化した。同じ頃、シエラレオネでは低賃金を理由に、鉱山で大規模なストライキが起き

ていた。そこで、「ボコ・ハラム」で投入した部隊をシエラレオネに向かわせ鉱夫を脅したが、それでもストライキは止まず、ダイヤモンドは何ヶ月も放置された。一方、リベリアでは昨年末に大量のダイヤモンドが発見された。通常ダイヤモンドが発見されても、採算性があるのはその内の1%に過ぎないが、この鉱山は巨額の利益が期待されている。

そこで闇の勢力は、ナイジェリアの油田を奪取し、シエラレオネのストライキを止めさせ、リベリアの鉱山を護衛し開拓する何かしらの作戦が急務となった。そして考え出されたのが、エボラ・パンデミックである。この非常事態を理由に大規模な軍隊を一度に、そして全地域に投入でき、邪魔者はワクチンで抹殺するという計画を立てた。何千人もの大規模な軍隊は、住民に強制的にワクチンを接種させ、油田の略奪と、新規鉱山の護衛を同時に行うために派遣された。その証拠に、米軍の拠点となるエボラ治療センターは、まさにダイヤモンドが発見された地域で建設されている。

世界のダイヤモンドを独占販売するのはデビアス社だが、その経営はロスチャイルド家が担っている。彼らはアフリカの部族同士を争わせ、紛争で「分断して支配する」事で資源大陸を独占した。そして、今また新たな資源を独占しようとしている。つまり、エボラは人口削減と、株価を含むワクチン業界の利益の他、天然資源の略奪まで併せ持っていたのである。国連はエボラ対策基金として、各国に計一十億円以上の援助を求めた。しかし、世界が本当に非常事態なら、なぜ各国はアフリカからの出入国制限をしないのかを私たちは真剣に考える必要がある。今後冬に向け、日本でも様々なワ

クチンが推奨される。今はまだ不妊や発癌に留まっているが、闇の勢力の最終目的は人々を完全に支配することにある。針の穴より小さいナノチップをワクチンで人体に入れ、政府の監視下でしか医療や保証を受けられなくする究極の管理社会を彼らは本気で目指している。

その一方で、インドでは違法なワクチン接種を行ったとして、ビルゲイツの財団が起訴された。以前より財団のポリオ・ワクチンを接種した子供達約48000人が麻痺状態となり、深刻な社会問題となっていた。しかし、今回の訴状はこの件ではなく、財団がインドの少数民族にワクチンを強制したとして起訴されている。一般的に、ビルゲイツは夫人と共に、アフリカの飢餓や病気の克服に最も献身的な慈善家とされている。しかし、実はいくつもの財団を経由し、有害なワクチンを世界中の人々に接種してい

るといのが実情である。

インドではモンサントの遺伝子組み換え種の借金苦で、実に20万人の農民が自殺した。次世代の種を残さないよう遺伝子操作されたこの綿種は、風で在来種と交配して他の地域の綿花も絶滅させた。枯れ葉剤で培われた除草剤は水と大地を汚し、周辺住民の健康も蝕んでいった。それでも収穫しようとするが、やがて害虫への耐性がなくなり収穫は激減した。他の作物を育てたくても、汚染された土壌では何も育たなくなった。こうして病氣と借金で苦しめられて、20万人もの農民が自殺したのである。そこで目覚めたインドの国民は、遺伝子組み換えビジネスに続き、今度はワクチン・ビジネスの犯罪性に声を上げ始めた。ガンジーの愛した国には、今も不屈の精神が宿っていた。もちろんビルゲイツの財団の起訴や、インドの農夫の自殺をメディアが報道する

事はない。しかし、例え遠く離れたアフリカやインドの事であっても、人ごととは思わない心が重要だと私は思う。これら現地で起こったいきさつを注意深く洞察することで、結果的に自分達家族を守ることにもつながってゆく。現実から目をそらすインターネットに接続すれば、世界はあまりにも酷い事で満ちている。そして、それが未来の日本である事を実感した時、ただ見ているだけで良いのだろうか、黙っているだけでは何も変わらないのではないかと、小さくとも湧き上がるその想いが大切なのである。そして、一人ひとりのこうした想いの集積が、世界の変化に直結するという経験が私たちはこれから学ぶことになる。インターネットが普及し、世界情勢が露わになる中、少しずつ、しかし確実に目覚めた人々によって、闇の勢力の崩壊が全世界的規模で広がっている。

Information

《中丸薫 最新刊発売のお知らせ》

11月21日、ヒカルランドより『地球』丸ごと奪われた『未来』を取り戻せが発売されます。

人類はまもなく金融奴隷から解放されて、思いやりで成り立つ光の社会が実現する。日本人が知らない間に《光の未来計画》が本格的に動き出している。闇の地球支配の根源にあるのは、非効率な化石燃料のカルテルだった。それを突き崩す革命的なテクノロジーの実用化が進んでいる。北朝鮮でフリーエネルギーが実用化される日が近い！争い、支配の旧型社会は終わり、新しい地球の未来像が始まる。



定価 税込み1,500円

《中丸薫 & 池田整治 講演会 CDのご案内》

【Disc1 池田整治 講演】2014年8月23日収録  
日本が沈めば世界が沈む。人口100万人を誇る当時の江戸では、美意識に満ちた文化が開花し、自然が循環するシステムが構築されていた。戦後教育とメディアによる自虐史的な歴史を振り払い、今こそ自然と一体化した社会に立ち帰ることが求められている。他者をいたわり、自然を敬う日本の文化こそが、やがて世界の指針となってゆく。

【内容】◆霊能力と三次元的生命力は異なる ◆ホビ族は常に「永久の道」と「滅びの道」を見つめ、闘いを選ばず共生を選んだ ◆ホビ族に伝わる「黒い岩=ウラン」の予言 ◆パオの国旗が示す日本への感謝 ◆江戸文化の高さに驚愕した西洋人 ◆情報を判断し本物を選ぶ時代 ◆浮世絵に憧れ、妻と日本を訪れたかったゴッホの真意など。

【Disc2 中丸薫 講演】

大戦で焼け野原となった日本。この惨状を憂い、北朝鮮を第二の日本とすべく、日本の宮家と李王朝間で婚姻が行われた。今動き始めている日朝問題の背景には、この70年前の歴史が関係している。そして、シリア・ウクライナから始まった紛争は、生き残りをかけた闇の勢力と、それを阻止しようとする国家を超えた勢力の闘いに他ならない。

【内容】◆終戦後、旧陸軍中野学校出身の「畑中理(おさむ) = 金策(キム・チュク)」は何をしたか ◆横田めぐみさんの現在 ◆第三次世界大戦を二度にわたって阻止したプーチン ◆安倍首相の苦悩 ◆D・ロックフェラーと北朝鮮 NO.2 チャン・ソンテクの失脚で動き始めた日朝問題 ◆次期首相選を睨んだそれぞれの駆け引きなど。



会価格員 4,950円  
一般価格 5,500円